

マイホーム 施工前診断

マイホームを建てる時の不安を少しでも解消してもらいたいと、宮崎県都城市の元工業高教諭で一級建築士の柘元博文さん(61)が、第三者の立場から設計段階の間取りなどを「診断」するセカンドオピニオンサービスを始めた。県内外から依頼や問い合わせが寄せられているという。

元教諭の一級建築士 サービス開始

柘元さんは宮崎県内の工業高校の建築科教諭として35年間勤務し、住宅の設計や製図の添削、指導を行ってきた。昨年3月に県立宮崎工高の副校長で定年退職。同10月、経験やノウハウを生かそうと、「ハウス設計」を設立した。「マイホームは一生に一度の高価な買い物なのに、トラブルも多い。建築主側と工務店側が互いに納得して良い家をつくってほしい」と願う柘元さんは、患者が主治医以外の医師の判断を聞いて治療に生かすセカンドオピニオンに着目。第三者として建築主の相談に乗り、施工プランの妥当性を検討する「間取り診断」を思いついた。

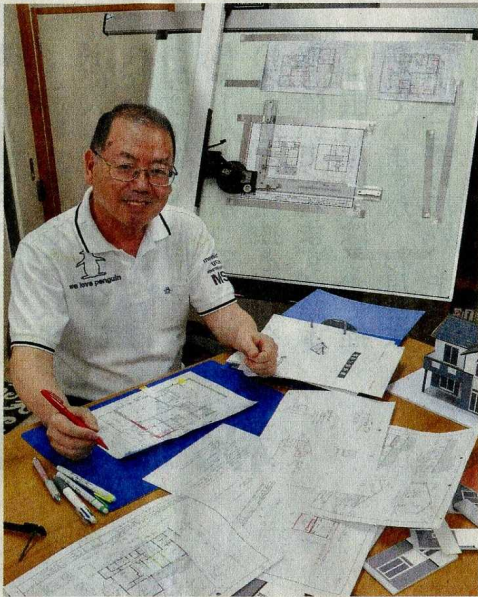
間取りなど セカンドオピニオン

施工プランが固まってしまふと変更できなくなるケースもあるため、契約前に平面図や間取り図が業者から手渡された時点での相談を勧めている。

建物の配置や耐震性、室内の通風、日照、収納など約50項目をAからDの4段階で評価。良かった点や気になる点、改善すべき点などをまとめ、相談者に報告する。リフォームも対象。

これまでに県内や福岡県などから約30件の相談や診断依頼があり、「工務店にしっかりと希望を伝えて不安が解消された」「説明が分かりやすかった」などの声が寄せられたという。

柘元さんによると、全国で同様のサービスを手がける会社はあるが、九州では珍しいという。料金は診断内容によって異なり、30000～85000円。問い合わせはハウス設計(0986・77・2147)へ。



新築住宅の間取りなどを診断するサービスを始めた柘元さん＝阪東峻一撮影